

■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取組」

[重点環境目標]

1. 地域の環境や地球環境の保全について学習します。(環境教育)
2. 電気、水、紙などの資源を大切にします。(省エネ、省資源)
3. リサイクルをはじめ、廃棄物を削減に向けて取り組みます。(廃棄物削減)

取組テーマ	取組目標	具体的な活動内容		担当者	活動主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
いきもの みどり	植物の育成等を通して、子どもたちの自然を大切にすることを育てます。	1	生活科でミニトマト・野菜を栽培して観察を行う。その後、調理して食べる。	2年各担任	2年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土の再生に関心をもって野菜栽培に取り組んだ。種を集めて観察する活動を通して、生命の循環について考えた。採集した種を一度冷蔵し、温度管理をして発芽させるなど実験的に行い、新しい芽が出るということを体験した。</li> <li>・一人一鉢、大豆を育て、成長していく様子を観察し、記録カードを書いた。国語の「すがたを変える大豆」と関連付けながら学習を進めたり、給食で提供される手作り味噌の作り方の動画を視聴したりして、大豆が様々な食品に変化するということを学ぶことができた。</li> <li>・各クラスで、グループごとにモンシロチョウが成虫になるまでの様子を観察したり、お世話をしたりして大切に育てることができた。</li> </ul>	【取組の評価】 <input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった  【理由】 ・活動を通して自然環境を再体験・再発見し、子どもたちの「自然」に対する見方や考え方に発想が見られた。 ・卵からの生育過程で、幼虫が寄生虫の被害に遭ったり、蛹からかえらなかつたことで死の様子を目の当たりにし、子どもたちは命の尊さを身近に感じながら学ぶことができた。  【今後の課題】 ・他学年への接続や、地域を動員した地域とともに学ぶ環境教育の推進。 ・大豆を様々な食品に変化させる体験ができるような機会の設定。 ・実体験に基づく命の尊さへの学びと道徳を関連させた学習の推進。
		1	ヒマワリ・ホウセンカを育て、成長過程等を比較しながら観察する。	3年理科担当	3年生		
		1	モンシロチョウの卵から蝶まで育て、成長過程を観察する。育ち方や体のつくりなど、自分なりの疑問を探求する。	3年理科担当	3年生		
		1	ツルレイシを種から育て、よく育つための条件を学習する。	4年理科担当	4年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科「季節と生き物」の学習と関連させ、継続的に観察を行いながらツルレイシを大切に育てた。ツルレイシの水やりを自主的に行ったり、雨風の強い日には鉢を安全な場所に移動させたり、植物を大切に思う姿が見られた。</li> </ul>	【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった  【理由】 ・植物に興味をもった子どもは自主的にツルレイシの様子を見るなど、習慣的な観察を継続した。なかなか興味をもてなかつた子どもは、理科の授業における観察にとどまった。 ・ごみの処理方法などについて、環境事業センターに行って知ることができた。一方で、リサイクルについて、寒川広域リサイクルセンターに行って学ぶことができていたら、さらに良かったと思う。  【今後の課題】 ・誰もが植物に興味をもって育てられるような指導の工夫。 ・ごみについて、子どもたちが主体的に活動できるような動機づけの工夫。
		2	緑のカーテンを育てる	4年理科担当	4年生		
		1	ごみがどこへいくのか、学習する。	4年各担任	4年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境事業センター見学を通して、ごみの処理方法やその課題についての理解を深めた。また、ごみ削減の意識向上が図れた。さらに、環境事業センターと協力しながら、不法投棄を減らすための看板づくりを行い、地域環境の美化に貢献した。</li> </ul>	【取組の評価】 <input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった  【理由】 ・植物に興味をもって育てられるような指導の工夫。 ・ごみについて、子どもたちが主体的に活動できるような動機づけの工夫。
		1	田んぼの講話を聴く。	5年各担任	5年生		
		2	田植え体験をする	5年各担任	5年生		
		3	収穫したお米の販売を行う。	5年各担任	5年生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しろかき」「田植え」「稲刈り」に取り組むことで、体験的な学習を通して、米作りについて考え、販売まで取組めた。</li> <li>・理科「生物と自然環境」、社会「地球規模の課題の解決と国際協力」で、児童がそれぞれテーマを設定し、調べ学習を進め、共有、発表をした。</li> </ul>	【今後の課題】 ・田んぼ塾の方の高齢化が進んでいることから、活動の継続に不安がある。 ・限られた授業時数の中で、SDGsをどのように扱っていくか検討する必要がある。  【次年度への引継ぎ事項】 ・稲作について年間計画の具体的な打ち合わせが必要である。 ・児童の興味のあるものを調べ学習させるだけでは、全項目を網羅できない。
資源・4R 廃棄物削減の取組み	地域の環境や地球環境の保全について学習します。	1	電灯・換気扇といったもののスイッチをこまめにオフにしたり、水道の蛇口をしっかりとしめたりすることを推進する。	全職員	教職員		

(様式1) 学校エコ活動シート

●写真等の記録：活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。

●学校長（推進責任者）によるコメント

【学校長名】

安倍 武雄

【今後の方向性について】

取組の評価において、どの学年もおおむね良好な評価となっている。これも、特段「エコ」「環境」「SDGs」と銘打つことなく、それぞれの教科や領域において子どもたちの発想や思考に寄り添う形で学習を進めることができているからだと考える。

今後とも、「エコ・環境…を教える」のではなく、子どもたちの学びの結果が「エコ」「環境」「SDGs」になるよう教育課程の工夫をこらしていきたい。